



3Dデータの活用を

小松市が技術職員研修会

小松市は19日、同市役所で職員を対象に研修会を開催した。各課の技術職員ら約30人が受講し、3Dデータの活用などに理解を深めた。

この日は、吉光組の道勇治専務取締役が講師を務め、3D設計データを活用したICT施工や3Dレーザーキャナードータでの納品などについて説明した。同社が受注した「勸進帳ものがたり

館渡り廊下新設工事」では、3次元モデルによる事前検証で作業が確認でき、効率的な工事が行えたという。

道氏は「不可視個所を可視化できることで手戻り作業が減少し、若手技術者の育成につながった」とし、積極的に新技術を現場に取り入れていくべきと強調していた。市は、3次元モデルを導入した建設生産システムのレベルアップを目指し、ドローンを用いた測量や3D設計などを各種事業に活用している。